

令和 6 年度学校評価



栃木県立鹿沼東高等学校

自己評価の指標 A…ほぼ達成 (80%以上) B…概ね達成 (60%程度) C…不十分 (40%以下)

● 目指す学校像・今年度の重点目標

目指す学校像	○生徒の学力向上に努め、進路目標の実現を図る学校 ○部活動の充実を通して、生徒の豊かな人間性を養う学校 ○地域との連携を充実させ、地域に貢献する人材を育てる学校
今年度の重点目標	○進路希望実現のため、学力の向上を図る 学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現 ○豊かな人間性を養うため、授業以外の活動の充実を図る 「総合的な探究の時間」や学校行事等を含む課外活動の充実 ○生徒一人一人に寄り添った指導の実現のため、教育D Xの充実を図る 特に、教育データの共有と分析および利活用の推進による教育活動の充実
【自己評価】 ○進路希望実現のため、学力の向上を図る・・・自己評価：B ・生徒達の進路実現には高く寄与できているが、学力向上については「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてさらに検討、改善を続けていく。 ○豊かな人間性を養うため、授業以外の活動の充実を図る・・・自己評価：B ・生徒たちが主体的に活動できるよう指導できていた。今後は、指導の流れを確立させていきたい。 ○生徒一人一人に寄り添った指導の実現のため、教育D Xの充実を図る・・・自己評価：B ・教育D Xについては、進展が見られた。更なる充実を図りたい。	

● 学校基本情報

校 訓	流汗悟道（りゅうかんごどう）
課程学科	全日制 普通科
ク ラ ス	1 学年 4 クラス・2 学年 5 クラス・3 学年 5 クラス 計 14 クラス
在籍生徒	男 285 名 女 260 名 計 545 名
部 活 動	運動部 14 文化部 8 加入率(延べ)86.1%
所 在 地	〒322-0002 栃木県鹿沼市千渡 2050
連 絡 先	電話 0289-62-7051 FAX 0289-65-7471
学校ホームページ	http://www.tochigi-edu.ed.jp/kanumahigashi/nc3/

※上記数値は令和 6 年 5 月 1 日現在

● 自己評価および学校評価アンケート

<各部>

分掌	今年度の目標及び成果	自己評価	次年度への課題・改善策
総務部	①校務効率化の推進 ②学校特色化の推進	① A ② B	①HP 写真の扱い方 ②部活動の活性化や教育内容の特色化など、他校との差別化
進路部	①質の高い進路指導の充実 ②探究活動の推進（キャリア教育含）	① B ② B	①複数のチェック体制を検討し、ミスを無くしていく。 ①生徒に 1 年間の予定を早めに周知する。 ②テーマ設定の手段・方法の再検討。 ②各学年の活動の型の確立
学習部	①思考力を高める授業の推進 ②自立した学習者の育成	① B ② B	①学習成果（理解度）の具体的な評価基準の再構築 ②家庭学習時間の充実 ②図書委員会の活動見直し ②タブレットの使用率向上
特活部	①集団的・体験的活動による自己有用感の高揚 ②より良い学校生活と人間関係を築くための自主的態度の育成	① B ② B	①今秋から清掃の回数が減ったので、重点を絞った活動を検討したい。 ②部活動の統廃合、委員会の精選を検討 ②生徒会予算の見直し
生活部	①他者の視点に立って適切な言動をとる力と、直面した問題の解決に向けて自ら行動できる力を育てる ②健康・運動への意識向上	① B ② B	①交通安全の注意喚起を強化したい。 ①不登校生徒への対応検討 ②健康管理に対する意識向上 ②健康に関する講演会の改善

<各学年・教科>

分掌	今年度の成果	自己評価	次年度への課題・改善策
1 学年	①基本的生活習慣の確立 ②基礎学力の向上 ③進路意識の育成 ④積極的に取り組む姿勢の育成	① B ② B ③ B ④ B	①スマートフォン使用についての指導を工夫・改善する必要あり ②学習を主体的に取り組む姿勢の改善 ③進路選択の自覚を深める必要がある ④自己主体的な積極性の向上指導
2 学年	①学力の向上 ②積極的な学校生活への参加 ③進路意識の高揚 ④安心できる学校生活の実現	① B ② B ③ A ④ B	①主体的に学習に取り組む態度の育成 ②仲間意識や社会性のさらなる向上 ③探究活動が進路実現につながるように継続的な探究指導が必要 ④他者に対する配慮支援
3 学年	①希望進路の実現 ②生きる力の伸長 ③安心できる学校生活の実現	① A ② B ③ A	①学部・学科選択が例年より遅い ②年内入試への対応策強化が必要 ③入試手続きに対するチェック強化が必要
国語科	①学習習慣の確立 ②基本的な語彙力の定着 ③論理的読解力・思考力の養成	① B ② B ③ B	①主体的に取り組むための指導改善が必要 ②有効な語彙力を育み、言葉の意味や表現に活かすことが必要あり ③グラフや実用文にも段階的に触れる機会を組み込む必要あり
地歴 公民科	①指導内容の精選と指導法の改善 ②基本事項の定着 ③社会情勢に対する興味・関心の喚起	① B ② B ③ B	①ICT 機器を活用した教材研究の時間確保 ②「読み解かせる力」の工夫をもっと高めていく ③SDG s を意識した授業の充実

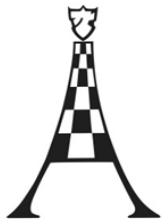
● 学校関係者評価者委員会（学校評議員）

令和 7 年 1 月 22 日(水)

学校評議員（5 名）よりの意見・提言
○学校全体 ・学校祭の再開に伴って、来場者が守るべき規則（撮影禁止等）をどのように周知させていくか、今後も検討をお願いしたい。 ・学校評価アンケートの実施方法について、I C T 活用に移行しているのは良いことだが、保護者からの回答率の低下が顕著である。追加の回答の募集もして良いのではないかな。 ○進路・学習 ・学習についての生徒の自己評価が下がってしまっている。原因の確認と対策をお願いしたい。 ・職員室前廊下での学習が減っているという話を知り合いから聞いている。 ⇒施設・設備の面からも職員室前はストーブの設置や、廊下の蛍光灯工事などで学習しやすい環境になってきている。ただ、職員室前は先生方や他の生徒の目があるので、生徒によっては質問等を聞きにくいかもしれない。ただ、その分、以前の情報実習室（現在はタブレットの配布によってパソコンは撤去されている）で質問に来た生徒の対応もしているので、質問の生徒数はあまり変化していない。 ・推薦で国公立の数が少ないが、その原因はあるか。 ⇒生徒や保護者は県内志向が強い。地方の大学に行くと、卒業しても都心への就職が不利になると誤解している方が多い。そのため、地方の国公立大学の希望も少ない。地方の大学に行くのならば、都内の私立大へ、という指向も強い。今後も地方の国公立大学の良さを生徒に伝えていきたい。 ・小中学校では不登校が多いが、高校でもそのような生徒がいると思うので、今後も丁寧な指導をお願いしたい。 ⇒ご家庭とも連絡を取り合い、本人の様子・希望を含めて相談していつている。せっかく本校に入学してくれたのだから、ぜひ卒業まで、と考えている。

数学科	①学習内容を定着させる授業の工夫 ②個に応じた指導の実践 ③自主的・発展的指導の推進	① A ② B ③ B	①追試の形態を工夫する。 ②2学年での習熟度指導の検討
理科	①生徒の実態に応じた指導法と新しい学習プロセスの構築の研究 ②新しい評価方法の実施および検討 ③科学的に探究する能力と態度の育成	① A ② B ③ B	①板書以外のメモを取る習慣の強化 ②基礎知識の強化が必要
保健 体育科	①規律ある集団行動 ②体力向上 ③各種目の技能向上 ④健康・安全の理解探究	① A ② B ③ B ④ A	②体づくり運動や補強運動への主体的な取り組みを継続し、体力向上を図る ③積極的に活動する姿勢を維持し、さらに高いレベルの技能習得を目指すための支援
芸術科	①創造的な表現力や豊かな感性、生涯に渡り芸術を愛好する心情の育成 ②自主性や思考力、責任感等、「生きる力」の育成	① B ② B	①鑑賞活動を充実させ、生徒の芸術への興味・関心を維持し、技術と知識の関連性を深化させ、表現意欲を持続させる指導が必要 ②タブレット活用の研究、振り返りと鑑賞時間の確保、責任ある態度の維持が必要
英語科	①「good speaker」かつ「good listener」になるための成長支援 ②生徒の英語による発信力の増進 ③自主的・発展的学習への取り組み支援	① B ② B ③ B	①英語4技能トレーニングアプリと具体例提示により、リスニング・スピーキング活動を円滑に行い、生徒の抵抗感が軽減され積極的な表現が促進されたが、継続的なサポートと計画が必要 ②今後は添削にもICTを活用できるように情報共有を進める必要がある
家庭科	①生活に必要な基礎的知識・技術の定着および活用 ②発展的学習の推進	① B ② B	①生徒が主体的に考え、生活に活かそうとする意欲を育てる ②ホームプロジェクトの計画策定と家庭クラブ活動の充実
情報科	①情報活用の実践力 ②情報の科学的な理解 ③情報社会に参画する態度	① B ② B ③ B	①プログラム集や教材集の活用を検討 ②グループ活動と発表機会を継続して創出し、人間関係の構築を促進する

●本校のビジョン



- ◇育てる生徒像－教育目標
- 知徳体の調和的伸長を図る
- ◆志を立て自ら学ぶ
- ◆他人を思いやる
- ◆心身を鍛える

- ◇目指す教師像－教師指標
- 自信と誇りをもって生徒と向き合う
- ◆優れた授業をする
- ◆生徒に寄り添う
- ◆助け合い協働する

スクール・ミッション

知的好奇心を刺激する探究活動や学校行事を通して、生涯にわたり自己実現する力を育成する学校

スクール・ポリシー

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）
本校では、次のような資質・能力を育成します。 ○確かな学力を養い、その学力を活かして課題を発見する能力や解決していく能力を育成します。 ○他者と協働する姿勢を養い、その協働を通して自己を変容・成熟させていく能力を育成します。 ○学校生活に向き合う姿勢を養い、その過程を通して強さと優しさを兼ね備えた人間を育成します。	本校では、次のような教育活動を実施します。 ○基礎基本から段階的に学ぶことで、確かな学力を育むことができる授業を行います。 ○自己実現に向けて、他者との協働も含めた課題発見・解決型の探究活動を行います。 ○人間性を育む、生徒を主体とした多様な特別活動を行います。	本校では、次のような生徒の入学を期待しています。 ○自己実現に向けて、学力の向上に努めようという意欲を持つ生徒 ○自ら課題を発見して、その解決に努めようという意欲を持つ生徒 ○部活動や地域の活動に他者と協働的に取り組む生徒